



学校だより

8・9月号

横浜市立六つ川台小学校

令和3年9月1日

URL:<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/mutsukawadai/>

E-mail: ky-e-mutsukawadai@city.yokohama.jp

今こそ、おうち時間で読書をしよう

校長 本間 明

夏休みが終わりました。夏の次におとずれるのは秋ですね。秋といえば、読書の秋、スポーツの秋、食欲の秋などと言われ、何をするにも過ごしやすい季節です。

ただ、感染症対策を考えなければならない昨今は、みんなで集まってスポーツをしたり、外へ食事に出かけたりといったことが難しいですよ。

では、読書はどうでしょうか。

読書なら、おうち時間で、1人で取り組むことができます。

特に読書は、子どもたちの成長にとってはいいことづくめです。

1. 集中力がつく

本を読み続けるということは、1つのことをずっとやり続ける力、集中力が必要なことです。読書が習慣化されると集中力が身に付いてくるのです。マンガやアニメに比べると、文字だけから情報を得なければなりませんから、かなり集中しないと内容をつかむことができません。読書に慣れてくると、知らない言葉が出てきても、前後の文章から意味を考えられるようになりますので、言葉の力、語彙力もまた育ちます。

2. 想像力がつく

物語にはいろいろな登場人物が出てきます。あの登場人物はなぜあの行動をしたのだろう、この登場人物は何を考えているのだろう。読書中は、そういったことを想像しながら本を読み進めます。人の気持ちを考えられるようになります。人の気持ちが分かるということは現実の友達関係でも役に立つことですね。こんなことを言ったら、やったら、相手はどう感じるだろうと思いやれます。国語の授業でも、「この登場人物はどんな気持ちなのでしょう」といったことがよく問われます。

3. 理解力がつく

正しい言葉遣いを理解し、社会常識やマナーを理解し、相手が今どんなことを考えているのかを理解する。こういった理解力も読書によって身に付くと言われています。逆に、これらの力が十分に身に付いていないと、トラブルの原因になる場合があることでしょう。また、読書は集中して本の世界に入り込むので、ストレスを解消して、気持ちを穏やかにする効果もあるそうです。

いかがでしょう？ 昨今は電子書籍でも子ども用の本をたくさん読むことができるようになってきました。読書好きの子は、気持ちが落ち着いている、勉強にもよく取り組むなどの統計結果もあるとのこと。本を読む習慣が無いお子さんの場合は、保護者の方の読み聞かせが良いきっかけになる場合もあります。この秋、ご家族で読書に取り組んでみませんか。